

特集 :おらほの農地集積

「活力に満ちたアグリゾーン・毛萱」 ~地域アグリベース推進委員会の活躍~

けがや
毛萱地域

(角田市毛萱・西根・日向前地区)

1.地区の概要

事業名	ほ場整備事業(担い手育成型)		
関係市町村	角田市		
関係土地改良区	角田土地改良区		
地区名	毛萱地区	西根地区	日向前地区
工期	H5~H9	H8~H12	H9~H14
受益面積	31.1ha	30.6ha	24.0ha
総事業費	426百万円	454百万円	560百万円(予)
担い手農家数	4戸	2戸1組織	2戸1組織
担い手経営面積(実施前)	5.2ha	2.1ha	2.5ha
(H13実績)	21.7ha	13.2ha	12.4ha
担い手農地集積増加率	134.8%	292.1%	303.0%



2.アグリベース推進委員会の積極的活動

毛萱地域は角田市の北西部に位置し、平成5年採択の毛萱地区を皮切りに、西根地区、日向前地区と担い手育成基盤整備事業を実施してきた地域です。平成8年には「宮城の未来型農業農村(アグリベース)創造事業」(後のみやぎの快適農業農村づくり支援事業(アグリベース型))の導入を契機に3地区を包含した「毛萱地域アグリベース推進委員会」を設立、地域ビジョンを策定し「活力に満ちたアグリゾーン・毛萱」をキャッチフレーズに実践活動を行ってきました。推進委員会は園芸部会、環境部会、交流部会、担い手部会、農地調整部会の5つの専門部会で構成され、それぞれに合意形成を図りながら活発な活動を展開しております。

3.生産組織の育成と農地の調整

集団転作組合3組織(毛萱集団転作組合、西根11区集団転作組合、日向前集団転作組合)において大豆のブロックローテーション体系を確立、平成13年度には34.3haを実施しました。作付け品種は、コスズ、あやこがねで全量JAみやぎ仙南へ販売しています。角田市は全域で大豆の作付けを推進しており、平成13年度は493ha栽培され、コスズはJA直営の納豆センターで納豆に加工、みやぎ生協に納められています。水稲では、稲作の省力化、低コスト化に向けた水稲直播栽培が約2ha実施されました。

また、アグリベース推進委員会では、農地調整部会と担い手部会との連携により、地域の全戸が加入する地域の水田や畑地を効率的に活用するための「土地利用調整組織(1)」の設立へ向けた機運が高まりつつあり、さらなる検討を進めているところです。

[農地調整部会長の村上定男さんからは]



「昔は自分の家で完結しようとする農家がほとんどでしたが、アグリベース事業やほ場整備が契機となり集落全体で話し合いを持つ機会が増え、地域農業の将来像が見え始めてきました。これに伴い「地域の担い手に任せよう」という意識が浸透し、農地調整や生産活動に関する集落全体の体制づくりが進展してきました。将来的な展望としては、担い手の方々が安心して生産活動が出来る地域を目指し、地元での話し合いを重ね焦らずゆっくり着実に組織づくりを進めていきたいと考えております」と力強いお話をいただきました。

4.地域交流の拠点農産物直売所「毛萱アグリ市場」

専門部会の一部を担う「交流部会」においては、地域の交流拠点として平成11年6月「毛萱アグリ市場」を開設、現在までに順調に売上を伸ばしております。当初は週1回のペースでスタートしましたが、予想を上回る好評につき夏季には週2回開催、「仙南ふるさと味まつり」へ出店するなど、積極的に活動範囲を広げてきました。また直売施設の規模も当初の2坪から、増築を重ね現在は12坪の店舗を



「みなさんのお越しお待ちしております」



賑わいをみせる「毛萱アグリ市場」

構えるまでになりました。扱う品目も100種類以上を数え、平成13年度の売上は310万円となっています。

[参加メンバー23名を束ねる小野さきよさんは]



「初めは、「本当に私たちでやれるのかな」と不安でしたが、開設にあたり各地の直売所に足を運び、展示の方法から袋の詰め方まで事細かに研究してきました。その甲斐あってか、近頃は付近の団地の方々がよく利用してくれていますし、遠くは船岡方面からわざわざいらしてくださる人もいたりします。こんな具合に私達にも張り合いができ、「次はどれを持って行こう?」「これを作ったらどうかしら?」などと仲間と語り合いながら楽しく販売しています」と明るく答えていただきました。

このように積極的活動を続ける「毛萱アグリ市場」は今後も地域の地産地消の核として、さらに活動範囲を広げていくものと期待しております。

5.担い手による園芸振興と住みよい環境づくり

アグリベース推進委員会園芸部会では、従来から栽培されていた「パセリ」のほか「つるむらさき」「つぼみな」といった軟弱野菜の施設栽培推進を行った結果、地域の担い手農家3戸による任意組織「毛萱作業受託組合」が結成され、水稲・転作作物の作業を受託するほか、パイプハウス20aを新設し施設野菜栽培への取り組みが開始されるなど、新たな販路の開拓及び所得拡大を目指した生産活動が自発的に行われているようです。

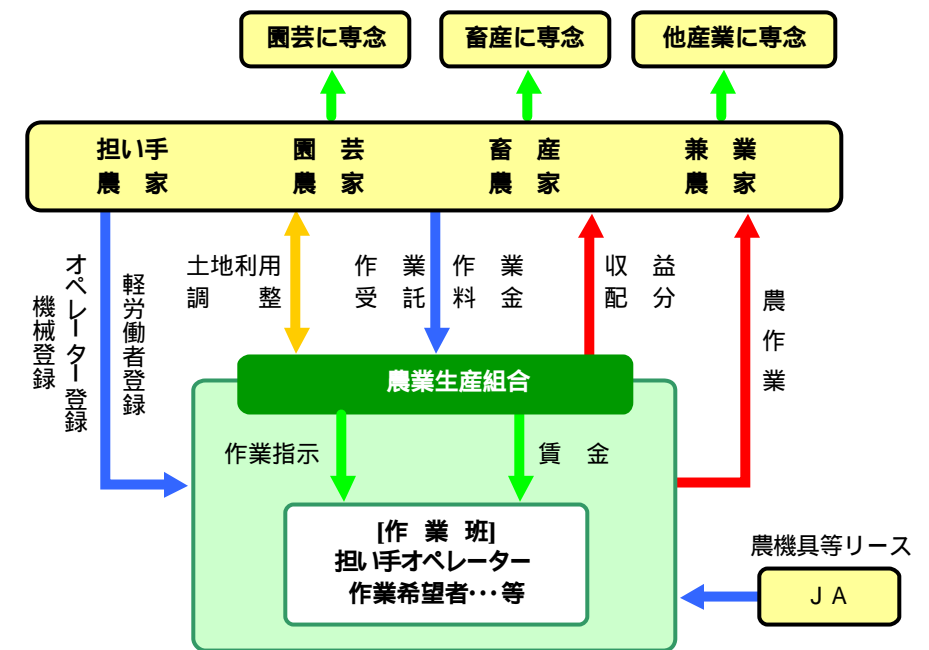
また、遊休地を利用し柿を30a新規に作付けしたのに加え、近年需要が増えつつあるブルーベリーへの関心が高まり「毛萱アグリ市場」付近に約5aの集団植栽が行われ、将来的には摘み取り園としての活用を目指し現在育成中とのことです。

さらに、地域の環境美化を目指した花壇苗の生産、地区住民の協力による定植作付け等、花街道の整備にも力を入れており、平成12年には角田市花壇コンクールで最優秀賞を受賞するなど、徐々に成果が現れているようです。

このほか、神楽やお祭り等の伝統文化、郷土料理、わら細工(しめ縄等一部販売)などの伝統技術の継承にも意欲的に取り組むなど、毛萱地域のモットーである地元住民の力による「活力に満ちた地域づくり」の実現はすぐそこまでやってきているようです。



【全戸加入の土地利用調整組織模式図(案)(1)】



- 問い合わせ先 -
〒981-1505 角田市角田字中島下458
角田土地改良区
TEL:0224-63-1234 FAX:0224-63-1358